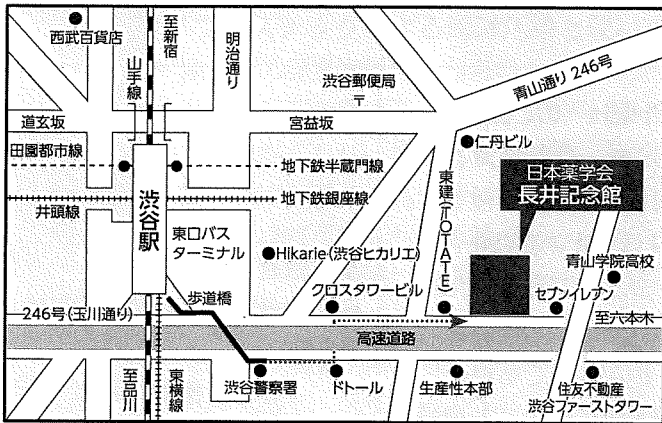


## 開催要領

- 日時：平成31年3月14日(木) 10:00~16:40
- 会場：(公社)日本薬学会 長井記念ホール  
東京都渋谷区渋谷2-12-15  
日本薬学会長井記念館B2F
- 参加費：会員 20,520円(消費税8%、テキスト代含む)  
\*同時に3名以上でお申込みの場合には  
割引価格として1名16,740円  
一般 28,080円(消費税8%、テキスト代含む)
- 定員：100名

## 会場案内

会場：長井記念ホール  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-12-15  
日本薬学会長井記念館B2F TEL.03-3406-3326



- JR渋谷駅(東口)より高樹町方面へ高速道路3号線沿い徒歩10分
- 東急東横線、東急田園都市線、京王井の頭線、東京メトロ銀座線・半蔵門線・副都心線の渋谷駅より徒歩10分

## 申し込み方法

- 本紙申込書に必要項目を全て記入の上、FAXにてお申込みください。  
協会HPからのお申込みも出来ます。  
協会HP：<http://www.jpi.or.jp>
- 申込みされた方には後日参加証と請求書をお送りします。
- 開催1週間前からの参加費の払い戻しは致しません。  
申込みされた方がご都合の悪い場合、代理の方の出席は差し支えありません。(当日、名刺をご提出いただきます)

### お問合せ並びにお申込み先

公益社団法人日本包装技術協会  
包装近未来シンポジウム係 担当：竹内  
〒104-0045  
東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F  
TEL:03(3543)1189/FAX:03(3543)8970  
e-mail: takeuchi@jpi.or.jp

#### 【個人情報の取り扱いについて】

1. 個人情報は「包装近未来シンポジウム」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内のために利用させていただきます。なお、作成資料は開催当日、関係者に限り配布する場合があります。
2. 参加申込みによりご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、第三者に開示・提供することはありません。

## 第6回包装近未来シンポジウム参加申込書

公益社団法人日本包装技術協会 竹内行 FAX. 03-3543-8970

No. \_\_\_\_\_

会社名						
所在地	(〒 )					
電話				FAX		
参加者	氏名			所属 役職		
	氏名			所属 役職		
	氏名			所属 役職		
				e-mail		
				e-mail		
				e-mail		

# プログラム

時間	テーマ	講演者
10:00 — 11:00	<p><b>「プラスチック問題とサーキュラー・エコノミー」</b>                      昨年SDでサーキュラー・エコノミーが国際規格化の検討に入ることが決まり、今や世界的なものになるとうている。言葉上は日本の循環型社会と差異がないように見えるが、日本の循環型社会が現行経済の枠内での廃棄物等の問題解決を目指すのに対して、既存の物質・製品を徹底的に利用した循環システムを作り上げることで経済の活性化をもたらそうというのがCEの特長である。そこで重視されるものは、使用済みを含めた既存物に残されている「残存価値」を徹底して利用できる経済システムの構築であり、プラスチックに対しても残存価値を生かすプラスチックの利用形態にいかにか転換していくかということが問われる。</p>	一般社団法人 サステイナビリティ技術設計機構 代表理事 原田 幸明 氏
11:10 — 12:10	<p><b>「プラスチックによる海洋汚染と使い捨てプラスチックの削減」</b>                      陸上での廃棄物管理から溢れたプラスチックは海洋へ流入・微細化し、海洋生態系全体に汚染が広がっている。生物に取り込まれプラスチックは分解されない異物として影響を及ぼすだけでなく、添加剤や吸着性の汚染物質を生体に運び込み、化学汚染の負荷を増大させている。海洋の持続可能な利用の観点から、海洋へのプラスチックの流入を削減するための対策が世界的に進められている。リサイクルにも手間とコストがかかり、石油ベースのプラスチックの焼却は実質的な温室効果ガスの発生・温暖化につながることから、使い捨てプラスチックの削減を軸に、バイオマスベースプラスチックへの転換、製品デザインや流通方式の変革による省包装化が必要である。</p>	東京農工大学 農学部 教授 高田 秀重 氏
13:10 — 13:40	<p><b>「業界から見たプラスチック問題への対応」</b>                      プラスチックの主要用途である容器包装。プラスチック製容器包装は食の安全の確保や、物流における環境負荷の削減等の面で私たちの暮らしに大きく貢献してきた。しかし、容器包装を中心とした使用済みプラスチック製品による海洋汚染問題が近年国際的に大きな課題になっている。また、この問題を背景の一つとして、政府による我が国のプラスチック資源循環戦略の策定も進められている。日本プラスチック工業連盟が進めている海洋プラスチック問題への取組みや、業界としてのプラスチック資源循環戦略の策定について紹介するとともに、今後の製品開発やリサイクルのあるべき姿を考える。</p>	日本プラスチック工業連盟 専務理事 岸村 小太郎 氏

## 企画委員

本シンポジウムは下記企画委員の皆様のご協力により開催しております。  
 ●有田 俊雄 氏 有田技術士事務所 所長  
 ●後藤 敏彦 氏 NPO法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事 (その他NPO代表 委員多数)  
 ●住本 充弘 氏 住本技術士事務所 所長

時間	テーマ	講演者
13:50 — 14:20	<p><b>「花王(株)のプラスチック容器資源循環戦略」</b>                      現在海洋プラスチック問題が世界的な問題となっている。過去プラスチック容器を使い捨ててきた生活文化のゆがみが現在起きている。花王は1990年代より、製品に使用するプラスチックを極力減らす努力をしてきた。特に語替え(フィルム容器)による本品の再利用は樹脂量削減に大きな効果をもたらす。しかしながらこの語替え文化は日本のみで海外には普及していない。花王はグローバルにこのフィルム容器を広げていくことを目的に2018年10月に花王のプラスチック容器宣言を発表している。本講演においては最初にフィルム容器の優位性を説明し、次に花王のプラスチック容器宣言の内容について説明をする。また今後の資源循環社会を目指して行くためにはどうするかを説明していく。</p>	花王株式会社 包装容器開発研究所 所長 稲川 義則 氏
14:30 — 15:00	<p><b>「海洋生分解性を有するカナカ生分解性ポリマー-PHBH™のご紹介」</b>                      ポリドロキシアリカン酸 (以下PHA) はエネルギー貯蔵物質として微生物の菌体内で高分子として生産される熱可塑性樹脂の1種です。PHAは主原料として再生可能資源であるバイオマス(糖や植物油等)から生産されることから、地球温暖化の原因の1つとされる二酸化炭素の発生抑制に繋がるとしてその実用化が期待されてきました。また一般的にPHAは好氣的条件下および嫌氣的条件下においても良好に生分解されますが、他の生分解性樹脂と異なり海水中においても良好な生分解性を示します。本講演では、PHAの例として当社が事業化を検討を進めているカナカ生分解性ポリマー-PHBHの生分解性等を中心に紹介します。</p>	株式会社カナカ R&D企画部 兼 新規事業開発部 幹事職 藤木 哲也 氏
15:10 — 16:40	<p><b>「パネルディスカッション」</b>  <b>「容器包装の観点からプラスチック資源循環戦略を考える」</b>                      【パネリスト】※予定                      一般社団法人サステナビリティ技術設計機構 代表理事                      日本プラスチック工業連盟 専務理事                      花王株式会社 包装容器開発研究所 所長                      株式会社カナカ R&amp;D企画部 兼 新規事業開発部 幹事職                      有田技術士事務所 所長                      NPO法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事                      住本技術士事務所 所長</p>	原田 幸明 氏 岸村小太郎 氏 稲川 義則 氏 藤木 哲也 氏 有田 俊雄 氏(企画委員) 後藤 敏彦 氏(企画委員) 住本 充弘 氏(企画委員)